

する。

19日夜、台風19号の被災状況をみていた仙台市若林区の高校1年、渡部朝陽さん(左)はつぶやいた。それを聞いた父の藤さん(右)に「じゃあ行ってもらつてありがたい」とつぶやくと背中を押され、20日に初めて災害ボランティアに親子で参加した。自分から積極的に動く性格ではなく、高校では部活動にも入っていない。それでも台風19号の水害で亡くなった被書者についての報道を見聞きし、「力はないけど、自分でできることを頑張りたい」と感じた。

「できることしたい」

宮城・丸森で ボランティア

仙台の高1

台風19号による河川の氾濫などで甚大な被害が出た高県丸森町では20日、同町災害ボランティアセンターが差配し、約200人のボランティアがチームに分かれ、被災した家屋の清掃などを始めた。

何かできないかなあ。



泥で汚れた家具などを轍トラックに積み込む渡部朝陽さん(左)
との優さん(右)丸森町五福谷の住民さん宅で20日

20日は、18人のボランティアと一緒に丸森町五福谷の佐藤さん(右)と一緒に水の消掃に汗を流した。12日深夜に近くを流れる川が氾濫し、家の1階や物置小屋に泥水などが流れ込んだ。佐藤さんは今も、隣接する同

県角田市の親類宅に身を寄せていることに喜びながらも、「いつ町に戻れるのか」と不安で口にする。

丸森町社会福祉協議会の谷津俊幸事務局長は、「ボランティアの支援がないと復旧の一歩が踏み出せない」と強調。「なるべく早い時期に、多くの人に協力してほしい」と訴えた。

【平家勇大 写真も】